

編 集 後 記

本号では、古くてしかも常に新しい問題を提供する胃潰瘍の特集を行なってみた。内科的治療に抵抗する胃潰瘍の観察は、本当に幾度となく論ぜられてきたが、早期胃癌の診断を進歩させてきた診断技術が、その獲得した高いレベルで、あらためて見直してみると、これ程までに種々の問題を内蔵しているかと目をみはるばかりである。執筆者はいずれも第17回日本医学会総会シンポジウム“難治性胃潰瘍”で蘊蓄を傾けられた第一級の方達ばかりである。深く味わっていただきたいと思う。座談会は、綜説執筆者の教室の方達で、業績をまとめられた陰の功労者をお願いした。こういうお話を聞いていると、研究というものを身近に感じていただけることであろう。

毎月行なわれている早期胃癌研究会に提供された症例や、投稿された早期胃癌症例が、編集部に沢山たまっている。そのうち特集号でも出して少しでも多く、皆さんに見ていただこうという予定である。よい症例を、御投稿下さい。

本号から技術解説として「私の……検査」というシリーズをお贈りします。はじめは、X線検査のベテラン青山氏の味わい深い技術をお楽しみ下さい。

4月に御協力いただいた読者の皆様のアンケートは、大体集計されました。現在の方針と大体一致しているようで一安心しましたが、細かい点で御指摘いただいた幾つかの改善すべき点も逐次盛り込んで行くというのを報告させていただきます。

<市川平三郎>